



龍野の醤油生産は、16世紀後半に始まったと言われています。揖保川の水が鉄分の少ない軟水で、醤油醸造に適していたことに加え、揖保川の水運は原料の運送、製品

醤油蔵のある町

の出荷に大きな役割を果たしていました。龍野の淡口醤油は、食物素材を生かす醤油として、人々の好評を博し、隆盛を極めることとなりました。



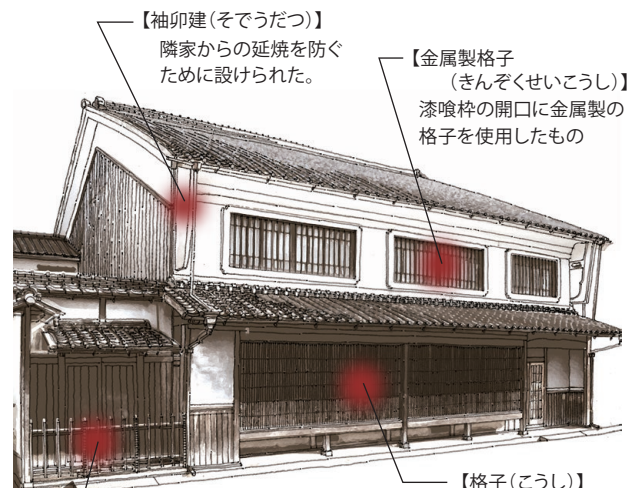
自動車 山陽自動車道「龍野IC」より、国道179号を北へ約10分
国道2号太子・竜野バイパス「福田ランプ」より、国道179号を北へ約10分
中国自動車道「山崎IC」より、県道26号を経て国道179号を南へ約30分

鉄道 JR姫新線「本竜野駅」下車、徒歩約15分
JR山陽本線「竜野駅」下車、タクシーで約10分

編集・発行：たつの市
〒679-4192 兵庫県たつの市龍野町富永1005-1 TEL0791-64-3131 (代表)

伝統的建造物の意匠について

- ・敷地の間口いっぱいに建つ主屋は、切妻造、平入を基本とし、近世は、ツシ2階建(中2階)の本瓦葺き(ほんがわがき)のものが多く見られましたが、近代になると棧瓦葺き(かかわらぶ)が主となり、明治中期以降には、本2階建のものが多くなりました。
- ・1階は、古くは出格子を構えるものや、全面を引戸とするものが見られ、大正以降になると、腰壁を設けて格子窓とする形式が多くなり、同形式への改修も進みました。2階は、大壁を基本とし、虫籠窓や出格子窓のほか、金属格子をはめる窓、近代になるとガラス窓なども現れます。



【袖卯建(そでうだつ)】隣家からの延焼を防ぐために設けられた。

【金属製格子(きんぞくせいこうし)】漆喰枠の開口に金属製の格子を使用したもの

【格子(こうし)】中からは見通し良く、外からは見えにくい。風通しや防犯も考慮されている。

【本瓦葺き】丸瓦と平瓦を交互に組み合わせた伝統的な瓦の葺き方



間口の大きな町家では格子窓とタイル貼りの腰壁といった複合的な外観様式がみられる。

まちの魅力の素材を探る

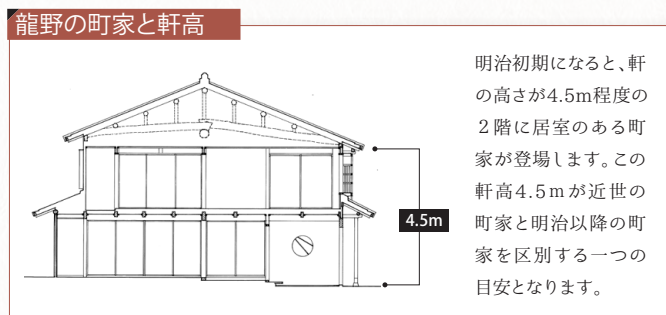
※㊸～㊿は、中面マップの位置で見ることができます。



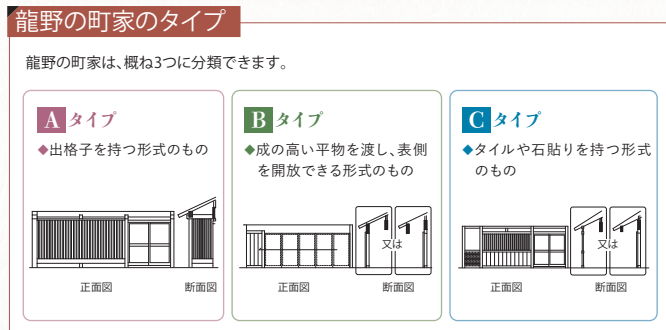
江戸時代から明治時代までに建てられた古い様式です。当時は「町人が武士を見下ろすことは許されない」という理由から2階建は禁じられていましたが、2階建であることを隠した低い天井の2階が設けられ、物置や使用人の寝泊りに使われていました。



龍野では珍しい木造在来工法の4階建の望楼付土蔵で、大正初期に3階建として建てられ、昭和初期に、当時の所有者が眺めを良くしようと、4階が増築されました。



明治初期になると、軒の高さが4.5m程度の2階に居室のある町家が登場します。この軒高4.5mが近世の町家と明治以降の町家を区別する一つの目安となります。



- Aタイプ** ◆出格子を持つ形式のもの
- Bタイプ** ◆成の高い平物を渡し、表側を開放できる形式のもの
- Cタイプ** ◆タイルや石貼りを持つ形式のもの



龍野において、棧瓦の登場は明治初期であり、それまでは本瓦が主流でした。当時の本瓦は今なお残す町家は、概ね江戸後期から明治初期までの建築であると推察できます。



大正から昭和にかけて、小さなガラスを割付デザインして木枠にはめ込んだガラス窓が登場します。「お多福窓(おたふくまど)」と呼ばれます。



龍野の2階開口部の特徴的なもので、漆喰枠の開口に金属製の格子がはまっています。第二次世界大戦中の金属供出により、木製格子に変わっている町家も見られます。



町家の外観を特徴づける格子は、風通しや採光を確保しながら防犯の役割も果たします。龍野では、しっかりとした親格子の間に複数の細目格子を配置した格子や同じ幅の堅子(たてご)を等間隔に組んだ頑丈な荒格子など、様々なタイプの格子を見ることができます。



商家の製品を運ぶ馬や牛を繋ぎとめておくためのものであったのですが、今日では軒下に人や犬が立ち入ることを防ぐために設けられています。



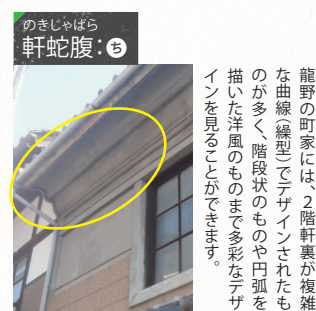
塀の存在感を強調し、屋敷の外観に格式性を与えるため高さをとった塀です。格子窓を開けたものや、虫籠窓を付けて町家の外観のように仕立てたものなど、龍野には多彩な高塀があります。



隣家からの延焼を防ぐためや屋根伝いによる侵入を防ぐための役割があり、装飾的な意味合いも見られます。



壁や柱に取り付けて、庇(ひさし)や梁(はり)などの突出部を支える横材のことで、直角三角形に似た形状のものを持送りと呼び、一本棒状のものを腕木と呼びます。



龍野の町家には、2階軒裏が複雑な曲線(編型)でデザインされたものが多く、階段状のものや円弧を描いた洋風のものまで多彩なデザインを見ることができます。



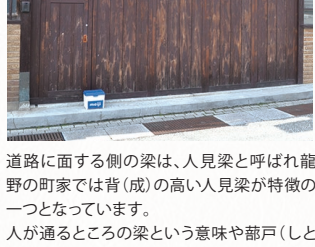
龍野の町家では、2階の軒裏は外壁が真壁(柱や梁などの軸組みを見せる工法)の場合は垂木及び野地板をあらわしとし、大壁(柱や梁が壁に隠れて見えない工法)の場合は漆喰塗籠となっています。



瓦で作られた魔除けの置物です。中国の唐の時代に玄宗皇帝の夢の中で鍾馗が小鬼を追い払ったという伝承に基づいています。通りを隔てた向かい側の家の鬼瓦の払った邪気を防ぐためとも言われています。



道路に面する側の梁は、人見梁と呼ばれ龍野の町家では背(成)の高い人見梁が特徴の一つとなっています。人が通るところの梁という意味や部戸(しとみど)の上にかかる梁を部梁と呼びそれが変化して人見梁となったとも言われています。



※あらわしとは、柱や梁が見える状態で仕上げる手法

たつの市龍野伝統的建造物群保存地区

うすくち醤油発祥の地として、醸造業で栄えた龍野城下の商家町



兵庫県 たつの市 Tatsuno